

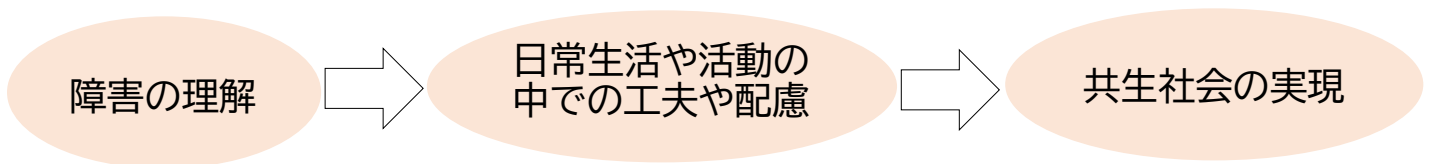
共生社会の実現を目指し、多様性を認め、自己理解につながることを目的とした

## 障害理解のための「出前授業」を実施しています

### なぜ障害理解授業を行うの？

障害の有無等にかかわらず、誰もが共に尊重し合い、支え合う共生社会を目指すことは、未来の社会をつくることにつながります。

そのためには、一人一人がお互いを認め共感できる力が必要となります。このことは学校におけるすべての活動を行う際に必要な視点となりますが、出前授業では、授業を通して相互理解について学ぶ場を提供しています。障害理解を通して、児童生徒が自分自身に関わることと捉え、日常生活での実践につながることを目指して行うものです。

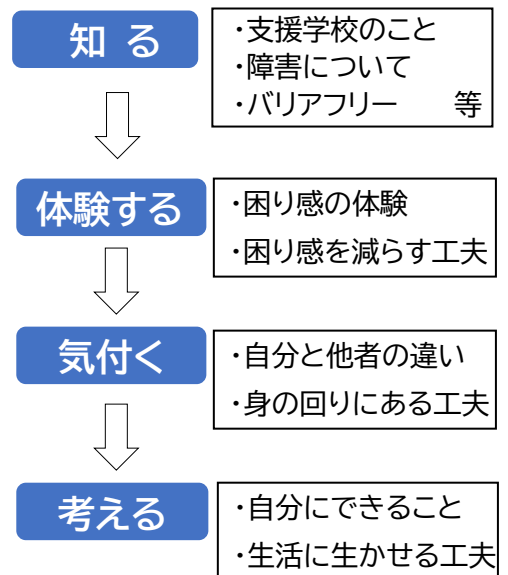


### 障害理解授業の内容と進め方

#### < 授業内容 (例) >

小学校	低学年	「あなたは どんな おともだち？」 ・得意なこと、苦手なことの捉え方
	中学年	「だれのための工夫かな？」 ・バリアフリー、ユニバーサルデザイン
	高学年	「障害って何だろう？」 ・社会にある四つのバリア
中学校		「相手の気持ちになって行動しよう」 ・心のバリアフリー、多様性の尊重
全学年共通		「横手支援学校の子どもたち」 ・学習の様子、障害の特性や関わり方 「体験活動」 ・言葉のバリア体験（分からない不安） ・お互いの気持ちを合わせる体験 等

#### < 進め方 >



※内容は、希望や年齢に合わせて相談しながら決めています。小・中学校の他にも、高校生、一般の方にも対応します。

※本校の児童生徒が行っている居住地校交流の事前学習や、道徳科や総合的な学習の時間、学級活動の中で行うことができます。

## 授業の実際



～ 小学校 中学年 ～  
総合的な学習の時間の中で、バリアフリーやユニバーサルデザインについて紹介しました。  
体に不自由さがある人の目線になって、どんなことに困るのか、どんな工夫があればよいかをグループで話し合いました。



～ 小学校 低学年 ～  
居住地校交流の事前学習として実施しました。  
支援学校や交流する本校の児童について知ることによって、当日の交流が深まりました。



～ 小学校 高学年 ～  
社会や環境によるバリアによって、障害による困難さが変わることについて紹介しました。障害の捉え方について考えてもらいました。

## 実施までの流れ

- ① 本校教頭へ電話で依頼  
↓
- ② 本校担当者から連絡をいたします。  
授業内容等について相談させていただきます。  
↓
- ③ 本校担当者から授業内容を提案  
↓
- ④ 授業当日

### <児童の感想より>

- ・支援学校の友達は私たちと同じだと思いました。
- ・障害があっても、工夫があればみんなと一緒に活動できることが分かりました。
- ・私たちみんなが何かに支えられていることを知りました。
- ・「自分のよさを生かす」ということがいいことだと思いました。
- ・相手のことを考えて行動することを続けていきたいです。

相互理解について学ぶ機会として、障害理解の出前授業を活用してみませんか



## 秋田県立横手支援学校

教頭 稲川 一男 支援部 土田 優子

〒013-0064

横手市赤坂字仁坂105番地1

TEL 0182-33-4166 FAX 0182-33-4266

